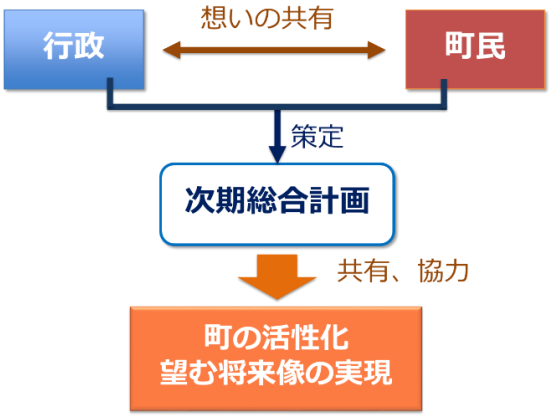
資料７

町民ワークショップ実施状況報告

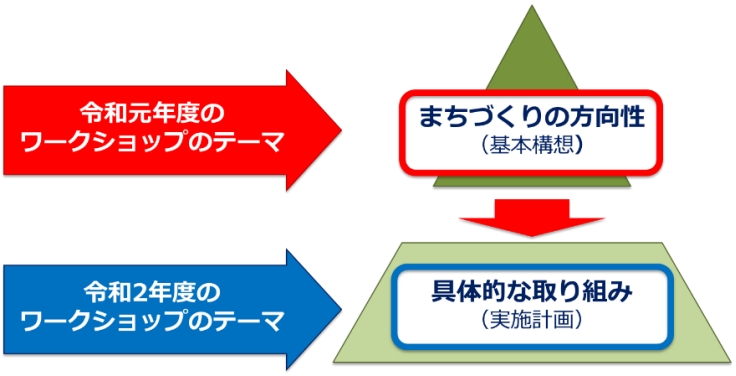
1　町民ワークショップの目的

次期総合計画の策定にあたっては、次のとおり「町民がこころ豊かに暮らすため」に町民の「想い」を集め、町民と町がその想いを共有しながら一緒に策定していくこととしています。

そうすることで、町民と町が協力して町の活性化や望む将来像の実現につながると考えています。



町民ワークショップは、想いの共有をする１つの手法として実施しています。今年度は、次のとおりまちづくりの方向性（基本構想）を検討するために実施しました。



町民ワークショップは、次の４点を目的に実施しました。

①町民の声を聴き、その想いを探る。

→町の課題を共有し、町の将来像（まちづくりの方向性）を町民と共に考えることで、町民と共に基本構想構築を策定する。

②まちづくりを“自分達でやる”きっかけづくりとする。

→参加者に町の課題を自分ごととして捉えていただき、自分たちができることを模索するきっかけとする。

③仲間づくりや行政への参加を促す機会とする。

→町民同士がつながり、課題解決に向けた話し合いを促す機会とする。

④町民のアイデアをまとめ、掛け合わせて総合計画へ反映する。

→共通するアイデアをまとめ、一見共通項のないアイデアを掛け合わせることで、今までにない寒川町ならではの魅力を創出する機会とする。また、それらを総合計画へ反映する。

2　講演会及び町民ワークショップの実施状況等

① 幸福学に関する講演会（キックオフ）

目　　的：・「町民がこころ豊かに暮らすため」の計画を策定するにあたり、こころ豊か＝幸せと捉え、幸せについて学術的な知識を獲得する。

日　　時：令和元年 8 月 18 日（日）18 時 00 分から 19 時 30 分

場　　所：寒川町役場東分庁舎 2 階 第 1 会議室・第 2 会議室

講演内容：「こころ豊かに暮らすためのコツ～幸せのメカニズムとは～」

講　　師：慶應義塾大学大学院　前野 隆司　教授

参加人数：81 名

② 全体ワークショップ

目　　的：・寒川町の歴史と現状を理解したうえで、未来の寒川町を想像する。
・幸福学（8 月 18 日に講演会を開催）の考え方をもとに、まちづくりについて考える。
・地域の仲間づくり（人と人のつながり構築）から、住民が具体的に取り組める事項をピックアップする。

日　　時：令和元年 8 月 31 日（土）13 時 00 分から 15 時 30 分

場　　所：シンコースポーツ寒川アリーナ（総合体育館）多目的室

参加人数：27 人

③ 分野別ワークショップ

目　　的：・寒川町の現状を理解したうえで、未来の寒川を想像する。
・幸福学（8 月 18 日に講演会を開催）の考え方をもとに、まちづくりについて考える。
・各分野に分かれて、より具体的な検討を行う。

日　　時：令和元年 9 月 23 日（月）　10 時 ～ 12 時　①景観/環境
14 時 ～ 16 時　②健康づくり/子育て/高齢/障害
9 月 28 日（土）9 時半～11 時半　③防災/防犯/交通安全
13 時 ～ 15 時　④教育/スポーツ/生涯学習/文化
17 時 ～ 19 時　⑤商工業/農業/観光

場　　所：寒川町役場東分庁舎 2 階 第 1 会議室・第 2 会議室

参加人数：延べ 49 人
（内訳）9 月 23 日 25 人（①：11 人、②：14 人）
9 月 28 日 24 人（③：6 人、④：7 人、⑤：9 人）

④ 地区別ワークショップ

目　　的：・寒川町の現状を理解したうえで、未来の寒川を想像する。
・幸福学（8 月 18 日に講演会を開催）の考え方をもとに、まちづくりについて考える。
・各地区における各分野の課題を掘り起こし、地域の中でどのような取り組みが出来るか、検討を行う。

日　　時：令和元年 10 月 22 日（火）　9 時半 ～ 11 時半　①北部（倉見、小動、小谷、大蔵）
13 時 ～ 15 時　②中部（宮山、岡田）
17 時 ～ 19 時　③南部（田端、一之宮、大曲、中瀬）

場　　所：寒川町役場東分庁舎 2 階 第 1 会議室・第 2 会議室

参加人数：延べ 21 人
（内訳）①：6 人、②：9 人、③：6 人）

3　ワークショップの方法

町民ワークショップにおいて、「総合計画の説明」「寒川町の歩み（歴史）」「幸福学入門」などをご説明したうえで、グループワークを実施しました。グループワークでは、参加者を４人から６人の班に分け、次のまちづくりシートに参加者の想いを記入したうえで、その想いや課題の解決方法などについて話し合いました。

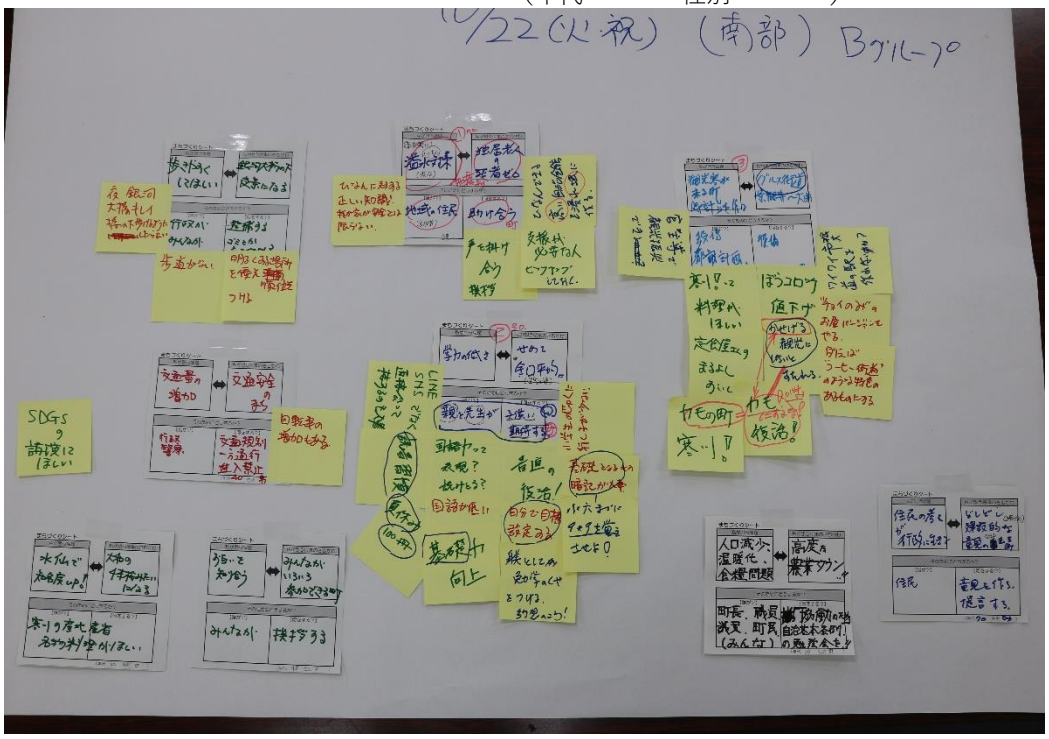
話し合いの中で出てきた有効なコメントは、付せんに書き、関係するまちづくりシートの近くにはりました。

まちづくりシート

私が思う課題	私が想う将来のさむかわ

そのためにどうするか？	
【誰が？】	【何をする？】

（年代　　性別　　）



4　私が想う将来のさむかわ

まちづくりシートの「私が想う将来のさむかわ」の中で、繰り返し出ていた内容などを次のとおりまとめました。今後、ワークショップ内でのコメントも踏まえながら、基本構想を策定するにあたって、重要となるキーワードを検討するとともに、今後の総合計画策定作業の中で取り入れていきます。

「人のあたたかさを感じるまち」

・お互いを気づかうまち
・町民が町民にやさしい町
・人があふれるまち
・ご近所で助けあえる防災体制）
・地域やみんなが協力して楽しく過ごせるまち
・みんなが知り合い、挨拶が行きかう町

「生き生きと暮らせるまち」

・人生 100 年時代を心身ともに健康に過ごせるまち
・健康寿命を延ばし元気な高齢者が多いまち
・体も健康、こころも健康
・子育ての家族＋行政の支援、仕組みが多くある
・障がい者にやさしいまち
・子どもを地域で育てるコミュニティ
・健康的な生活ができるまち
・老若男女がいつでもどこでも「学ぶ」機会がある町づくり

「活気のあるまち」

・チャレンジできるまち
・イベントが充実している町
・町中がいろんな声であふれている町
・思い切り遊べる場所があるさむかわ
・全世代が活動しやすいまち
・知恵のまち　さむかわ（高齢者活用）
・スーパーなどでも地元の野菜が買えるまち
・神社と川を活用したまちづくり

「安心して暮らせるまち」

・自治会が充実しているまち
・地域コミュニティによる安心なまち
・災害死者ゼロを目指すまちづくり
・子どもたちが住み続けられる町

「人がつながるきっかけ・居場所づくり」

・音楽にあふれるまちづくり
・立寄る場所が多いまち
・何となく出てきて居られる場がある。
・外国から移住した方も含めて多様な交流ができているまち
・新しい人も若い人も入れるコミュニティ
・ワークショップのようなイベントが多い町
・寒川の生き生きと明るい人のつながり
・自分らしく生きている人と出会える町
・世代間、地域を超えた交流の盛んなまち

「魅力あるまち」

・「寒川」と言って「知ってる」と言ってもらえるような町
・子どもから高齢者までが魅力があると感じるまち
・町民がさむかわに誇りを持つまち
・都会的でなく、癒しになるようなまち
・花いっぱいの町さむかわ
・町民が地元の会社を紹介できるまち
・富士の姿をもっと身近に感じられる町

「生活しやすいまち」

・どの世代でも便利に使える公共交通
・様々な遊びができる空間が保持されている
・体が不自由になってもどこでもいけるようになる町
・町の中で生活用品がすべてそろう
・ごみが落ちていない町

「自然にふれあえるまち」

・自然にふれあえる町
・自然あふれる快適な町
・緑が多い寒川町
・「高座」のこころ。が感じられるような町の木、花を増やす
・日本一のすいせんのまち
・子どもたちが安心して川遊びをできる町
・誰でも農業を楽しめるまち

5　事業アイデア（抜粋）

中学生におばぁが教えるクッキング、子供×キャンプ×災害時訓練×消防団の掛け合わせイベント地域でやる小さな防災訓練、避難所ウォーキング・こどもカフェ（小谷で実施中）、学校授業で手話教室、実験・体験教室、参加型音楽フェス、コワーキングスペース、お試し喫茶、小規模販売スペース、農家レストラン、農家体験、休耕地で家庭菜園、休耕田畑を活用したこどもイベント、縄文フェス・農フェス、家で眠っている物を活用したイベント、公園×家×庭が一緒になったような、多世代が交流できる施設、空を撮るコンテスト、寒川から見たフォトコンテスト、ＢＢＱ大会、ガーデニングコンクール、日本一の水仙の町、丸金ボートの桜並木を活用した屋台船、文書館カフェ、物々交換イベント、環境学習イベント、健康運動ボランティア、地域のママたちが集まれるイベント、空き家を活用した集まり、アプリ連動システム（倒木、事故等危険を知らせる）、終電乗り過ごした時の乗り合いシステム、車に乗りたい人・乗せてもいい人のマッチング、65 歳以上のミセス・ミスターコンテスト、地元レストランの料理教室、もくせいハイツの料理サークル（実施中）、地元の食材を提供する民宿、地元の事業者のワークショップ（教える・作る・使う）、フラワーアレンジメント・リース作り教室など　※順不同

6　将来の寒川に寄せる町民のコメント（抜粋）

直接つながることの大切さ。町民が町民に優しい町。すっと入れる、やわらかいコミュニティ。ＳＮＳではなく直接会って接することも大切。障がい者に一番必要な支援はコミュニケーションへの支援。地域に文化の香りのする町。町民が単なる住民ではなく参加主体として行動する町。子どもが集まれば大人が集まる。情報発信は“人”が肝要。コンパクトな寒川だからできる。魅力ある人材を育てる。笑顔をエネルギーにしている人を探す。一度外に出ると気が付く故郷の良さ。子育て世代は財産。寒川に住むみんなが寒川の良さを共感し、寒川に住んで本当に良かったと思える町。高齢者エネルギーの活用。成果の共有が大切。特色ある郷土教育が町民を育てる。町役場が「何かしてくれる」だけだと意外と満足度が高くならない。アイデアの組み合わせ。寒川町民はイベントに飢えている。承認欲求は皆にある、共有共感が必要。知恵の町さむかわ。高齢者だが元気な人が多い。主婦の経験を生かせる町。主婦の社会貢献と自己実現の町。単純な学力だけが重要ではない。世代を超えて助け合える町。町民と町とのつながりが今は薄い。挨拶は人をつなぐ。挨拶や親切心など、内面から表現される町並みもある。五感、表情で人とつながる町。世代や地域を超えた交流が盛んな町。外国人は普段生活することにも難しさを感じている。みんなが知り合いの町。地域の文化、伝統、歴史などを尊重する町。今あるものを活用したい。民間の活力を活用する。など　※順不同

7　今後の町民ワークショップに係る取り組みについて

①講演会及びワークショップ

日程：令和２年１月 11 日（土）

内容：幸福学の講演（幸福度に関するアンケートやワークショップの結果を踏まえ）
基本構想案の状況、ワークショップ

講師：慶應義塾大学大学院　前野隆司教授

②具体的な取り組みを検討するワークショップ

日程：令和２年６月以降を予定

内容：まちづくりの方向性である基本構想の実現に向けた具体的な取り組みを検討

③次世代を対象にしたワークショップ

日程：令和２年度中

内容：教育委員会や小中学校と調整

令和元年度及び２年度のワークショップにおいて挙がった提案やコメントを策定ツールの１つとして活用し、町民のみなさんの望むまちづくりを目指します。

また、行政の取り組みとして実現が困難な事案については、ワークショップで築いた人脈を活用するなどして、事業実現に向けた方法を、町民のみなさんと共に検討します。

今後もワークショップなどを通じて、まちづくりのキーマンの掘り起こしや、人材育成の方策を検討します。そのため、そのきっかけとなるワークショップの参加者をいかに増加させるかが喫緊の課題となります。行政への関心が低い状態にある中、参加者を増やすためには、各団体への一層の声掛けのほか、普段行政と関わりの少ないコミュニティに出向き、町民の声に耳を傾け、行政の想いを伝えた上で、ワークショップへの参加を呼びかけます。